

3. 安全安心なまちづくりを目指して

いざという時の共助

～太平百合が原地区防災訓練～

太平百合が原連合町内会 副会長 **あおやぎ 青柳** **ふみただ 史匡**

【はじめに】

太平百合が原まちづくり協議会では、平成 25 年度から災害時を想定し、基幹避難場所になる小学校の体育館を会場に、地域の住民が一堂に会する避難場所の開設や運営等の防災訓練に取り組んでいる。

《実施状況》

- ・平成 25 年 10 月 4 日（金）12:30～16:20
会 場 太平南小学校体育館
参加者 地域住民 119 名、児童 320 名
- ・平成 26 年 10 月 24 日（金）12:30～16:00
会 場 太平小学校体育館
参加者 地域住民 100 名、児童 438 名

【防災訓練実行委員会と参加体制づくり】

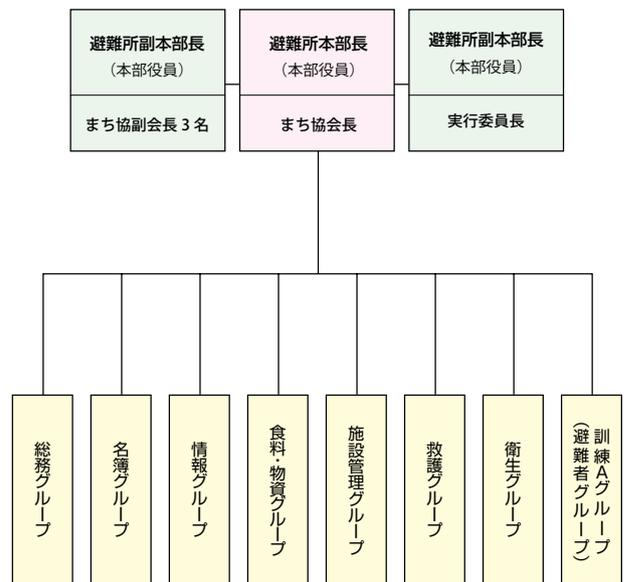
委員会の構成は、まちづくり協議会の役員と町内会・自治会から各 1 名（原則会長）で、防災訓練の概要や運営体制、グループ編成や動きなどを協議し、事前準備や活動グループのリーダー的役割を担う。参加住民人数の割当ては、会場校の校区にある町内会により多く割当ててる。



鈴木会長（中央）あいさつ

【避難場所運営体制とグループ編成】

避難場所のグループ編成は、平成 25 年 3 月に札幌市が策定した「避難場所運営マニュアル」に準じ、8 グループ編成としている。ただし、マニュアルにある「ボランティア統括グループ」は「避難者グループ」とし、初期の段階で効率的な訓練になるよう工夫している。（下の表を参照のこと）



訓練 B 避難所運営体制 グループ編成表

【訓練の主な内容】

訓練 A 「避難者グループ」は、児童と一緒に避難行動をし、体育館に戻ってからは、消防署員の指導で AED などの取扱い、ロープ結索、防災資機材使用などをローテーションして実体験する。

訓練 B 体育館での避難場所の開設・運営を、各グループリーダーの指示のもと、各業務内容やグループ相互の連携を実体験する。

共通訓練 食料・物資グループが担当した炊出し（アルファ米）を施設管理グループが作成した居住ブースで試食する。



太平小児童と避難訓練



居住スペースでのアルファ米試食



リーダー会議



児童に向けた防災講話



防災資機材取扱訓練

【会場校との連携】

会場校の小学校とは、事前にこの訓練の趣旨を説明し、教育課程に位置付けている「避難訓練」と抱き合わせて実施できるように、具体的な内容や要領について協議して共通理解を図った。

その結果、平成25年度は高学年が施設管理グループと一緒に居住スペースづくりを体験した。平成26年度は児童のグランドへの避難や津波を想定した3階への二次避難を地域住民と一緒に体験した。また、高学年（5・6年生）を対象に「72時間を耐え抜くために」の講話を組み込んだ。

【取り組みを振り返って】

参加者からは、地区で連携し合う訓練に対し、いざという時に取り組まなければならない内容や心構え、準備などが総合的に理解できた、近隣町内会と顔が見える連携ができると一定の評価を得ている。一方で、事前の準備が整い過ぎる傾向があるので、事前準備は必要最低限にとどめ、地域住民に臨場感を持たせる工夫が必要であること、多様な避難者への対応、冬期間を想定する訓練など、幅広く訓練内容を工夫していく必要がある。

平成27年度は、百合が原小学校を会場とした訓練を予定している。地区内には基幹避難場所となる小学校が3校あることから、今後も3校でローテーションさせ、継続実施を検討していきたい。

○お問い合わせ

太平百合が原まちづくりセンター
TEL.011-771-9180